

篠原房江作 「回り道」

- (効果音) (電話のベル。受話器を取る音)
- 清水由美 はいもしもし、清水です。
- 浅海貴子 (フィルター音)もしもし、由美ちゃん？ 教会の浅海です。お元気？ もうずいぶんお会いしていないけど、また教会に来られないかと思って。
- 由美 (突き放すように)せっかくですけど、今は教会へ行きたくないんです。みんなにもあまり会いたくないし…。さよなら。
- (効果音) (受話器を置く音)
- 由美(モノローグ) 教会か…。もう1年近く行ってないなあ。いろんな人が、電話や手紙をくれたけど、どうしても教会へ足が向かない。わたしは教会へいけるような人間じゃない。神を知らずにいた罪びとが、その罪を悔いて神様の前に立つのなら赦されるけど、わたしは… 神様を知って、十字架を受け入れて、受洗までしたのに、神様の愛を知りながら、再び神を裏切る罪を犯して、今は背を向けてしか生きられなくなってる。いつからこんな人間になっちゃったんだろう。あのころはよかったなあ…。
- (音楽) (回想のブリッジ)
- (効果音) (教会のガヤ)
- 高校生①高木 それじゃ、今日の高校生会は春の伝道会について話し合いたいと思います。いろいろ意見を出してください。
- 由美 そうね。今回はコンサート形式みたいなのをやってみない？
- 高校生②伊東 うん、高木君たちにギターを弾いてもらって、何人かでスペシャルソングをコーラスしたり…。
- 高校生③ 賛成！ 伊東さんの独唱もいいと思います。
- 高校生②伊東 え、ヤだ。一人なんかじゃ歌わないもん。そういうの、由美ちゃんがいいよ。
- 由美 わたし？ 冗談！
- (効果音) (高校生たちの笑い、ガヤ)
- (音楽) (回想終わりのブリッジ)
- 由美(モノローグ) 楽しかったな…。でも、今のわたしはあのころのわたしじゃない。なぜ？(すすり泣き)
- ナレーション 清水由美は、教会の高校生会で神様を知り、高校1年のクリスマスにバプテスマを受けました。教会活動にもとても積極的に、活発に参加していましたが、いつのころからか、教会を離れた生活になってしまったのです。その原因は、由美が付き合っていたボーイフレンドにありました。彼の名は加藤裕二。彼女は以前、彼のことで、姉のように慕っていた信仰の先輩である浅海さんに相談

したことがありました。

浅海

由美ちゃん、話ってなあに？

由美

あの… 今お付き合いしている人のことなんだけど…。

浅海

ああ、いつか教会に連れてきたいって言った人？

由美

そうなの。

浅海

その彼と何かあったの？

由美

何って、特別にないんだけど。裕二君とは、わたしが教会に来る前から付き合っていたでしょ。だからわたしが受洗したことも知ってるし、日曜は礼拝があるから会えないこともちゃんと分かってくれているんだけど、最近、ちょっと違うの。

浅海

違うって？

由美

その… 感覚的に。

浅海

感覚的って、価値観の違いを感じているわけ？

由美

そうなのかなあ。うまく言えないけど、今風の普通の男の子っていう感じ。(恥ずかしそうに)なんて言うのか、付き合い方っていうか、女の子に対する欲求っていうか…。

浅海

分かったわ、由美ちゃんの言うこと。そうねえ、その裕二君の態度が、たとえ今風だったとしても、クリスチャンとしての由美ちゃんが、聖書の教えどおり、正しい愛を持って、神様の道をしっかり歩いていて、本当に彼が由美ちゃんをいとしく思ってくれてくれるのなら、解決することだと思うわ。もしも裕二君が分かってくれなかったら、きついことを言うようだけど、そんな人とは別れたほうがいいわ。クリスチャンとして信仰を貫けないような付き合い方は、本当の幸せじゃないもの。

由美

分かった。いろいろありがとう。

ナレーション

こうやって浅海さんと話してから数日後のことです。夕方、裕二から「会ってほしい」との電話があり、そのいつもとは違う元気のない声を気にしつつ、由美は出かけていきました。

由美

待った？ どうしたの、急に電話なんかしてきて？ 何かあったの？

加藤裕二

歩こう。

由美

ちょっと待ってよ。一体何があったの？ ヘンよ、今日の裕二君。(沈黙の間)

裕二

ゆうべ、おれのクラブの後輩がバイクの事故で死んだんだ。

由美

え？ それほんと？

裕二

本当さ。冗談でこんなこと言えるか。今井っていうやつで、おれが一番かわいがってた後輩なんだ。練習もしっかり出て、見込みのあったやつなんだ。なのに…。おれは仲間から聞いたけど、新聞にも載ったって。おとといの練習は一緒にいたんだぜ。その今井が、今日はもうこの世にいないんだ。こんなこと信

じられるか？ おれにとって、身近な人間の死は初めてなんだ。由美、人間は死んだらどうなるんだよ？ お前、キリストとか信じてんだろ？ 教えてくれよ。おれ、今井のこと考えるとゾッとするんだ。怖いんだよ…。

由美 裕二君…。

(音楽) (不安そうな感じ)

由美(モノローグ) あんな裕二君を見るのは初めてだった。いつも明るくて、自信に満ちていた彼が、まるで奈落の底に突き落とされたように、死の恐怖におびえて震えていた。でもわたしは、何も言ってあげられなかった。あまりにもつらそうにしている彼の姿に、同情の言葉など無意味に思えたから。どうしたら傷ついている彼の心を慰められるのか、あの時のわたしには分からなかった。だから思わず裕二君に抱き締められた時も、「イヤだ」って言えなかった…。あの時の気持ち…。どうしてあんなったのか、今も分かんない。でも、彼に抱かれながら、「わたしが、このわたしがすべてを与えることで、彼が立ち上がれるなら」って自分に言い聞かせていた——。(間)

あの時から、あの時からわたしは神の道を外れてしまった。裕二君に伝えるべき聖書の言葉も、神の愛も、何もかもなくしてしまったの。祈ることさえもできなくなって…。教会へも行かず、自分の好きな子とやっても、少しも満足感がない。何をしても、むなしく感じてしまう。どうしたらいいのだろう。

ナレーション 由美は、教会から離れて、月日が過ぎるほどに、すべてに絶望を感じ、神を知らながら、神を裏切ったという後ろめたさに、身も心もつぶされんばかりになっていました。そんなある日、教会に行っていたころお世話になった高校生会のリーダーの石川さんから手紙が届きました。

石川 由美ちゃん、お元気ですか？ 一日も早く教会に来られるように、お祈りしています。それから、イザヤ書の 55 章 7 節を読んでみてください。ではまた。石川。

ナレーション 手紙は、短いものでしたが、由美にとっては、ここ何か月も開いていなかった、聖書を開くきっかけとなりました。

(効果音) (聖書をめくる音)

由美 イザヤ書… 55 章は… あった。「主に帰れ。そすれば、主は哀れんでくださる。私たちの神に帰れ。豊かに赦してくださるから。」“主に帰れ”？ そんなことできるわけじゃない。わたしは神様を裏切った罪びと…。今更「赦してください」なんて虫が良すぎる。罪を罪と知りながら、主の教えを踏み外してしまったのに、今度は自分の苦しみから逃れるために、神様に赦しを請うなんて、赦されるわけがない。主の哀れみなんて、あるはずないわよ。罪を告白して祈ることなんてできない。…でも主よ、助けてください。やっぱりあなたに祈り求めます。わたしでも、こんなわたしでも赦されるのなら、もう一度あなたの道を歩みます。…わたし、いつの間にか祈ってる。祈ることがこんなに心を安らかにして

くれるなんて…。「主に帰れ。」イエス様は、こんなわたしをも愛してくださるんだ。

ナレーション

由美の目には涙があふれていました。久しぶりに聖書を開くことのできた由美には、本当に教会の多くの人が祈ってくれていることを感じずにはいられませんでした。

由美

神に背を向けた1年間は、長かつらい道のりでした。でもまた主の道に帰ることが許され、再び聖書を開くことができ、由美の心はうれしさにいっぱいでした。神様、ありがとうございます。このように祈れる幸いを感謝します。あなたに許された喜びを、再び忘れることなく、あなたの道をしっかりと歩めますように助けてください。

聖書の言葉

今、あなたの神、主が、あなたに求めておられることは何か。それはただ、あなたの神、主を恐れ、主のすべての道に歩み、主を愛し、心を尽くし、精神を尽くしてあなたの神、主に仕え…ることである。(申命記 10:12、13)

<完>